

ブラジルの発展と 日本鉄鋼業

新日鐵住金株式会社
[代表取締役社長]

友野 宏
Hiroshi Tomono



今般発足した新日鐵住金株式会社は、それぞれが独自に追求してきた海外戦略を統合・加速させてトップクラスの国際鉄鋼業に発展していくことを目指して参りますが、この文脈の中においてブラジルは当社との間に60年余のかかわりをもつ特別の意味合いをもつ国であるということが言えると思います。

日本の製鉄業がブラジルに第一歩を記したのは、1953年にスタートしたウジミナスプロジェクトであります。未開の地であったミナスジェライス州イパチンガの原野を切り拓き、銑鋼一貫製鉄所を建設する日伯官民一体の大プロジェクトには、当時の八幡製鉄・富士製鉄を中心に多くの日本人鉄鋼マンが長期にわたり参加しました。イパチンガ製鉄所は62年に操業開始以来、今年で操業50周年を迎えています。同州は高品質の鉄鉱石を豊富に産出するので、この資源を要件として同州および近隣諸州に続々と一貫製鉄所が建設されることとなりました。国営会社としてスタートしたウジミナスは、90年代の民営化を通じてコジッパ製鉄所を統合し規模を拡大、現在は当社が筆頭株主として経営をリードしています。

往時のもうひとつのエポックとしては、北部パラ州の旧CVRD（現Vale）社カラジャス鉄鉱山の新規開発があげられます。世界一の品質と埋蔵量を誇るカラジャス開発は、新日鐵を中心に日本鉄鋼業界がリーダーシップをとり、日本を含む国際協調融資により実現された大事業です。86年に出荷が始まり、現在では年間出荷量1億トンを超え、さらに2億トンを目指す拡張

計画が進行中であり、世界の高炉業には不可欠の原料として貢献しています。

ウジミナスプロジェクト開始から半世紀余を経た2007年に住友金属工業とフランスのValloirec社はこの製鉄業メッカ、ミナスジェライス州ジェシアバの地をシームレス合弁事業Valloirec&Sumitomo Tubos do Brazil (VSB)の拠点とすることを決断いたしました。かねてよりシームレス鋼管の海外製造拠点建設を視野に入れてきた住友金属工業にとって、鉄鉱石資源に加え、前述のような歴史的な背景・労働力の質的な面への安心感等が、この地を選択した大きな理由ですが、経済政策を重視し雇用促進を推進したいブラジル側からも、同地進出を強く要請されていたためでもあります。昨年9月のVSB開所式にはジルマ大統領自らが登場し「単に鉄鉱石を輸出するだけではなく、シームレスパイプという成品にし、付加価値を上げる本プロジェクトを歓迎し応援する」というスピーチを行いました。またブラジルの広大な国土で生産されるユーカリを活用した木炭高炉法の採用は、CO₂負荷を極限まで減少させるので、環境面への関心の高い、欧米の客先から大きな評価を獲得しています。VSB製品はすでに世界各地にデリバリーされて評価を確立しつつあります。ウジミナスの薄板・厚板にVSBのシームレス鋼管が加わって、ブラジルは21世紀における当社主力製品の一大生産拠点になります。今後この地において培った海外事業ノウハウを起点にして当社の海外事業のいっそうの拡大を図って参りたいと考えています。